

# 日本・韓国・台湾スポーツ交流ための基盤作り

特定非営利活動法人 静岡 FID サッカー連盟

〒424-0924 静岡県静岡市清水区清開二丁目 1 番 1 号 NPO 法人清水サッカー協会内

## 助成事業の概要

本事業では、まず交流のある韓国との交流を今年度も開催し、交流を深めると共に、合わせて韓国のスポーツ状況調査を行なう。同時に、あまり情報のない台湾に出向き、関係団体から知的障害者のスポーツ状況調査を行い、互いの国の障害者のスポーツの促進と交流の可能性を探る。

両国での交流、調査を 8 月とし、台湾へは、本団体の担当 2 名が関係団体へ聞き取り調査を行なう。

韓国へは、交流選手の派遣と関係団体への聞き取り調査を行なう。

台湾での調査は、ボッチャ協会、手をつなぐ親の会、知的障害者スポーツ協会、台湾師範大学に協力を依頼、実施する。韓国では、安東永明学校の職員及び仁川広域市福祉協会に協力を依頼、実施する。交流においては、交流が互いの地域にどのような影響を及ぼしているのかをまとめる。聞き取り調査に関しては、日本の状況との比較をして、スポーツ促進及び交流において、本団体の役割について検討していく基とする。

## 事業の成果

### ○国を越えた地域でのスポーツ交流の成果

静岡県からは、15 名の選手を仁川広域市に送り、仁川広域市選手団との交流を行なった。サッカーの技術は、日進月歩しており、拮抗した試合が展開された。結果は 2 対 1 で静岡県選抜が勝ったが、その真摯なサッカーへの取り組みに、試合

後たくさんの拍手が送られた。交流についての話し合いでは、仁川広域市では、「日本とサッカーが出来る」、「日本でサッカーが出来る」が本人、保護者へのモチベーションとなっており、チームへの参加者が増えているとのことだった。課題としては、休日等の関係で働く社会人のスポーツの継続が難しいことがあげられていた。静岡県では、若い世代が交流に参加しているが、地域に戻って地域のサッカーチームのリーダー的な役割になっていることと皆がそのことに憧れを持つようになっていることがあげられた。

台湾での知的障害者のスポーツは、日本と同様、社会参加においてとても重要なものと捉えられている。日本での障害者スポーツや大会をよく研究しており、2 年に 1 回だが全国大会も行われている。種目等で見ると個人スポーツが多いのが特徴である。海外で世界大会を行うアイナスやパラリンピックとの窓口もあり、今後更に発展していくことが予想される。特に、ボッチャは、障害者だけでなくシニアのリハビリにも取り入れられており、学校、障害者の多くの団体に広がっている。師範大学でも、学生等が学校等の支援に入っており、今後も普及していくものと思われる。サッカー等の集団ゲームは、ほとんど取組まれていない。台湾での集団ゲームの発展に寄与するために、交流以前に、サッカー教室等の開催が必要と感じた。

韓国では、障害者スポーツの全国大会を見ると、多種多様なものが取り入れられ、世界との窓口が日本と同様きちんとしている。全国大会は、日本と違い学生の部分があるのが、今後日本でも学ぶ

べき点だと感じた。最近では、スペシャルオリンピックスの団体の取り組みが注目されているようである。地域でのスポーツとなるとまだ発展途上で、全国大会等も選抜チームで行っているようである。交流等を通して、地域スポーツの発展に寄与できると確信した。

## ■ 成果の広報・公表

仁川広域市とのサッカー交流については、即時的には、保護者等への報告も含め、ホームページで紹介した。（選手の写真等に制約があったため、1ヶ月程度にした。）

仁川広域市とのサッカー交流の選手については、地域での報告会を開き、初めての海外渡航のことや交流での楽しさを発表していただき、今後の選手に夢を持っていただくようにした。

韓国、台湾及び日本の知的障害者のスポーツ状況については、交流の成果と共に冊子にまとめ、県内特別支援学校と障害者スポーツ支援団体に配布した。なお県内の障害者サッカー団体へも配布し、海外との交流の意義を示すと共に、団体の今後の計画のひとつとして検討をお願いすると共に、静岡県の様々なサッカーの取り組み状況をPRしていくことを確認した。

台湾での調査をもとに、支援企業等に状況調査について報告する機会をもち、今後の支援をお願いした。

## ■ 今後の展開

仁川広域市では、サッカーの交流が選手の生活の意欲につながっていることが確認された。仁川広域市、静岡県でのよい事例を集め、交流の意義を明確にしていくと共に支援の在り方、運営のあり方を検討していきたい。そのためにもこの交流を継続していくことが重要であると考えている。

台湾では、集団のスポーツが根付いていないことが分かった。そのような意味からも、交流以前に、集団スポーツの良さを理解していただく教室等の開催が出来ないか模索していきたい。時期、場所とも未定であるが、まず特別支援学校のスポーツ状況を更に詳しく調査し、その可能性を確かなものにしたい。その上で、仁川広域市との交流のように選抜にこだわらずに、知的に重度の選手等が対象など、どのようなタイプの交流が可能か模索をしていきたい。そのために、台湾知的障害者スポーツ協会と継続的な話し合いをしていきたい。日本、韓国では、生涯体育を位置づけるために、どのような工夫が必要なのかも考えていきたい。